

8-4-22 鉄道専門委員会

1. 主な活動の記録

(1) 委員会の開催

専門委員会の開催回数：9回（Web 併用）

(2) 鉄道専門委員会セミナーの開催

若手および中堅技術者を対象とした、鉄道に関するセミナーを年1回開催した。

・令和7年10月29日（水）

「北港テクノポート線—大阪・関西万博への鉄道—」

講師 森川 一弘 氏

株式会社大阪港トランスポートシステム

開催方法 協会会議室、録画配信

(3) 「品質セミナー」のためのエラー事例の収集と分析を実施。

昨年に引き続き、委員出身各社からエラー事例を収集し整理した。昨年までの228例に16例を追加し、246例とした。

また、当委員会は隔年参加となり、今年度は参加した。

(4) RCCM 教材の改訂

今年度 RCCM 自主学習システム教材の改訂は、実施しなかった。来年度は、演習問題の改訂を中心に軽微な変更を行う予定である。

(5) 「鉄道土木の計画・調査・設計報酬積算の手引き」（改訂第12版）の発刊および普及活動

令和7年7月に「鉄道土木の計画・調査・設計報酬積算の手引き」（改訂第12版）を発刊した。主な改訂内容は、以下の通りである。

・「鉄道構造物等設計標準・同解説（トンネル・開削編）」（令和3年8月）、「鉄道構造物等設計標準・同解説（トンネル・山岳編）（トンネル・シールド編）」（令和4年5月）の発刊に対応し、トンネルに関連する山岳トンネル、シールドトンネル等の見直しを行った。

・新たに補強土擁壁等詳細設計を作成し、従前の盛土補強土擁壁に加え切土補強土擁壁を新規で追加した。

・その他、様々なご意見への対応や最新の設計手法との整合、文言の見直し、詳細な解説など小改訂を行った。

また、建設コンサルタンツ協会の一般用ホームページに掲載している正誤表についても、必要に応じて随時、更新する。

(6) 「報酬積算の手引き」（改訂第12版）に関する質疑対応

「鉄道土木の計画・調査・設計報酬積算の手引き」（（一社）建設コンサルタンツ協会 改訂第12版）に対する質疑について対応した。質疑件数は、20件であった（内、13件が入手依頼）。今後も随時対応する。

(7) 独立行政法人 鉄道・運輸機構との協議

独立行政法人 鉄道・運輸機構と設計歩掛や、業務関連、労働環境について協議を行った。また、意見交換会を開催した。継続審議が必要な課題については、実態調査も含めた対応や協議を行い、前向きに協力していく。

2. 次年度の活動について

次年度の活動としては、引き続き「鉄道専門委員会セミナー」を開催する予定である。エラー事例の収集と分析及び品質セミナーWGの参加、RCCMの自主学習システム教材改訂、「鉄道土木の計画・調査・設計報酬積算の手引き」（第12版）の普及活動および質疑対応を実施する。

また、鉄道・運輸機構に対しては、意見や要望を提示し協議を継続していく。

その他、鉄道総合技術研究所や鉄道・運輸機構の窓口として、技術標準の改訂に伴う資料の収集と展開などの役目を果たしていく。

（鉄道専門委員会委員長 池端 文哉）